

## 1. た・づ・な

# 信頼される軽種馬市場を目指して

日本中央競馬会 日高育成牧場

場長 田辺 博章



本年2月の人事異動で日高育成牧場の場長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。日高育成牧場での勤務は約20年ぶりになりますが、その当時と比べると日高の馬産地は特に育成環境において大きく様変わりしました。とりわけ同牧場周辺は、かつては生産牧場であったものが育成施設に変わり、日高育成総合施設軽種馬育成調教場を利用して育成業が盛んに行われています。昨年より実施されている競走馬生産振興事業により馬産地における構造改革が徐々にではありますが進展している現況をみますと、今後さらに生産・育成の分業化が進み、後期育成においても優秀な人材による高度な育成技術が求められていくものと思われまます。

地方競馬の低迷を背景として競走馬の販路縮小が余儀なくされているなか、生産者の皆様からは、昨今、当歳馬の庭先販売は以前に比べると大変少なくなってきたとお聞きします。特に牝馬についてはよほどの良血馬でもなければ見向きもされないそうです。一方、市場取引に目を転じますと、本年から(社)日本競走馬協会のセレクトセールでは1歳馬も上場され、当歳馬と合わせて3日間で売却総額が117億円を超える空前の大盛況を呈しましたし、先に行われた北海道トレーニングセールやひだかトレーニングセールでも前年を上回る好成績を記録しています。このような昨今の動向をみますと、今後の日本における競走馬の流通は庭先取引から市場取引に徐々に移行していくように感じます。

もっとも庭先取引が活発なのは競馬先進国では日本だけで、私がかつて生産育成研修を行ったニュージーランドを始め海外では、流通される良質馬の大半が市場で取引されるのです。その理由は簡単で、市場のほうが高く売れるからに他なりません。要するに、良い馬が市場に上場されれば好循環を生み、市場は

活性化するのです。また購買者の視点に立つと、当歳馬より1歳馬や2歳馬市場のほうがリスクが少ないことから、トレーニングセールへの需要が今後さらに高まるようにも感じます。本年の2歳トレーニングセールにはシンガポールの競馬関係者の購買もありましたが、今後こうした海外関係者の購買が増加すると、トレーニングセールはますます活況を呈することになるでしょう。そうしたなかでより資質の高い馬が上場されるようになれば、日本人購買者の目を、バレッツやファシグティプトン等、米国の2歳トレーニングセールから日本へ向けさせることも決して困難ではないように思います。

JRA が購買育成した2歳馬は、昨年よりブリーズアップセールと銘打ってせり方式で売却していますが、本年4月24日に中山競馬場で開催した同セールでは上場馬69頭中68頭が売却され、その売却率が**98.6%**という驚異的ともいえる結果となりました。その成功の要因としては、桜花賞に出走し人気の一頭となったダイワパッションの出現を始め数々のことがあると思いますが、何とんでも大きいのは、徹底した上場馬の情報開示によってせりに対する購買者の信頼を得たことだと思います。JRA では育成馬が入場以降、運動器や呼吸器の疾患などに関する育成研究に取り組んでおり、同セールでの情報はその一部を開示したものです。こうした育成研究で明らかになってきたことは、育成期の若馬に発症する特有の骨疾患や呼吸器疾患の大半は競走馬としての将来に悪影響を与えるものではないということです。競走馬は生き物であり、育成期間中何らかの病気や故障があるのは当然です。このような育成期の病気や故障を極力少なくするためその予防に努めることが大切なことは勿論ですが、購買者のせり市場への信頼を得るためには、こうした病歴を隠すことなく積極的に開示していくことが極めて重要だと考えます。

日高育成牧場では、今後も生産育成研究の開発に精力的に取り組み、生産育成者の方々に様々な情報を提供してまいります。そうした情報が有効に活用され、育成技術の向上、せり市場の活性化に繋がればと期待している次第です。どうか今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。